



専門演習I(異文化間教育) / 佐藤 千瀬 准教授

## 複数の文化や言語の間で育つ子どもの、保育や教育を考える

異文化間教育とは、日本で暮らす外国人家族のような2つ以上の文化や言語の間で生活する子どもの発達や人間形成を考える学問です。ゼミでは、馴染みの薄い国の絵本やおもちゃに触れることや、言葉が分からない状況で授業を受けることで、子どもの視点で異文化を体験します。それぞれの学生にとっての「当たり前」が、異文化を背景とする人にとっての「当たり前」と異なることを実感した上で、保育や教育の現場ではどのようなことができるかを考えます。



日本のおもちゃや教材とは色使いや価値観が異なります。触れてみて異文化を感じます。



世界の文化との差を見ると、自分の知識や常識が広がり、価値観が変わります。



ゼミは教員の研究室で行い、少人数の学生と教員が常に議論をしながら学びを進めます。

## 卒業論文テーマ例

- ▶ レゴの魅力
- ▶ 並行世界からのメッセージ  
—ダイアナ・ウィン・ジョーンズの描くファンタジー—
- ▶ ロボットに心はあるのか?
- ▶ 日本語ラップについての一考察  
—韻を踏むことで見えてくるもの—
- ▶ 特別な配慮が必要な子どもたち—A学習塾での体験から—
- ▶ ‘へなそうる’に隠された魅力  
子どもたちの遊びにおける大人の在り方
- ▶ 自己決定能力を身につけるディベート学習指導案の作成  
—本当の先生になった私を待っている子どもたちへ—
- ▶ 林明子作品から読み解く姉の葛藤  
—姉妹を描いた作品における絵の表現分析からの一考察—
- ▶ 子ども食堂の意義とこれから
- ▶ 特別支援学校(肢体不自由)小学部児童の補装具
- ▶ 特別支援学校知的障害者用音楽科教科書の教材分析